

おすぎの  
名画のすゝめ  
Scene.27

こんにちは。おすぎです。  
今回も家でゆっくりと楽しめる、  
とっておきの3本を紹介します。



「シャイニング」  
1980年公開  
イギリス・アメリカ映画  
監督 スタンリー・キューブリック

ステイブ・キングの原作を、  
スタンリー・キューブリックが映画  
化したホラー映画であります。

コロラド州・ロッキーマウンテンにある  
冬期間は閉鎖されるオーバールッ  
ク・ホテルに、管理人の職を求めて  
ジャック・トランス(ジャック・ニコ  
ルソン)、妻のウェンデイ(シェリー・

デュヴァル)、息子のダニー(ダニー・  
ロイド)一家がやってきます。小説  
家志望でアルコール依存症を患って  
いるジャックに、支配人のアルマン  
(バリー・ネルソン)は「このホテル  
は、以前の管理人であるチャールズ・  
グレイデイが、孤独に心を蝕まれた  
挙句、家族を斧で惨殺し、自殺した  
といういわく付きの物件だ」と伝え  
ますが、ジャックは気にも留めず、  
家族と共に住み込みの生活を始め  
ます。猛吹雪により、外界と隔離  
されたホテルで起こる戦慄の出来  
事とは!?

キューブリックによる映画化で  
世界的に有名になった原作ですが、  
じつはステイブ・キングの作品を  
大幅に変更していて、もうほとんど  
別作品。キングは、キューブリック  
を批判して、後に、映画版のバック



「シャイニング」  
写真協力:公益財団法人川喜多記念映画文化財団

「ダイ・ハード」という言葉には  
なかなか死なない、しぶとい奴  
という意味がある  
そうです。原作は  
ロドリック・ソープの  
「ナツシング・ラスト・  
フォーエバー」。日本  
では1989年に公  
開されました。  
別居中の妻ホリー  
(ボニー・ベディア)に  
会う為ロサンゼルス  
にやって来たニュー



「ダイ・ハード」  
1988年公開 アメリカ映画  
監督 ジョン・マクティアナン

シングを自重する。ことを条件に、  
ドラマ版での再映像化を試みたそ  
うであります。キューブリックも  
主人公のジャックや作品そのもの  
にも原作とは違う構想を抱いていて、  
ジャック・ニコルソンがキャステイ  
ングされたことにキングは「平凡な  
人間が狂気に取り込まれるという  
ストーリーが、奇抜な演技を得意と  
するニコルソンにより変えられて  
しまう」と反対したのだとか。  
とにかく、キングはキューブリック  
作品がとてつもない嫌いだっただのね(笑)



「ダイ・ハード」  
写真協力:公益財団法人川喜多記念映画文化財団

ヨーク市警のジョン・マクレイン刑  
事(ブルース・ウィルス)。口論から  
喧嘩別れとなり、その後、ホリーが  
勤める日系企業のクリスマスマスパー  
ティー会場で、参加者全員が人質と  
なる武装集団による事件が発生し  
ます。彼らに見えられずに脱出した  
ものの、警察から相手にされず、  
マクレインはたった一人で戦うこ  
とになるのです。

原作で初老の主人公は、企画当初、  
クリント・イーストウッドやアル・  
パチーノらベテラン俳優に交渉  
したようですが、いずれも断られ、  
当時新進俳優だったブルース・ウィ  
ルス起用することになって、年齢  
を30代に変更したそうです。



「ベニスに死す」  
写真協力:公益財団法人川喜多記念映画文化財団



1971年公開  
イタリヤ・フランス映画  
監督 ルキノ・ヴィスコンティ

### 「ベニスに死す」

それまでのアクション映画と違い肉体俳優を起用せず、劣勢の状況下にある普通の主人公が頭脳で挑んでいく、という要素を入れて成功したこの路線は、後の「スピード」、「ザ・ロック」、「ミッシェル・インポッシブル」などに受け継がれ、新しいタイプのアクション映画の先駆けとなったのであります。

老作曲家(ダーク・ボガード)が静養の為にベニスを訪れ、ふと出会ったポーランド貴族の美少年ター

ジオ(ビョルン・アンドルセン)に理想の美を見出し出して以来、浜辺に続く回廊を、タージオを求めて彷徨うようになります。

そんなある日、ベニスの街中で消毒が始まり、疫病が流行していることを聞きつけますが、それでも老作曲家はベニスを去ろうとしません。白粉と口紅、白髪を染めて若作りをし、死臭漂うベニスを、ただただタージオの姿を追い求めて歩き続けますが、ついに力尽き、海辺のデッキエアに横たわったまま、煌めく波の光の中にいるタージオを見つめながら、老作曲家は死んでいくのです。

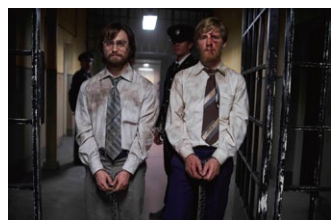
映画で使われたマーラーの交響曲第5番第4楽章「アダージェット」は、もともと作曲家が当時恋愛関係にあった「アルマ」に宛てた音楽によるラブレターで、この映画の感情的な表現において主役のような役割を果たしています。映画を観たあるハリウッドメジャーの社長は、マーラーがとうに没した大作曲家とは知らずに「今度の新作映画のテーマ音楽を作らせよう」と言ったそう。ただ、「美しいもの」だけを見ていようと思った作曲家は「同性愛者」ではない、と私は思うのであります。

## おすすめの新作映画

### 『プリズン・エスケープ 脱出への10の鍵』


原題:Escape from Pretoria 監督・脚本:フランシス・アナン 配給:アットエンタテインメント  
9月18日(金)より、シネマート新宿、ユナイテッド・シネマ豊洲ほか全国順次ロードショー

アパルトヘイト政策下の南アフリカで育ったティム・ジェンキンの自伝「脱獄」を基にした実話の映画化。ティム・ジェンキン(ダニエル・ラドクリフ)とスティーブン・リー(ダニエル・ウェーバー)は、白人でありながらアフリカ民族会議(ANC)に加わり、反アパルトヘイト運動を展開していた。しかし、1978年6月、爆発装置を使用してANCのチラシを街中に散布していたことで二人は逮捕され、ティムには12年、スティーブンには8年の刑が宣告される。白人を収監するプレトリア刑務所で、二人はANCメンバーのマンデラと共に終身刑の判決を受けた政治犯の長老デニス・ゴールドバーグ(イアン・ハート)と出会う。脱獄を考えているというティムとスティーブンに、デニスは「我々は犯罪者とは違う「良心の囚人」だ」と苦言を呈するが、ティムは木片の鍵を作り脱獄することを思いつく。



イギリス出身のフランシス・アナン監督は、ポリティカル・スリラーに傾倒していて、プロデューサーがティムの回想録「脱獄」を手渡したことから製作が動き出したそうです。

とにかく、木製の鍵で脱獄するという発想の凄さ、本当にそれが成功するのか?という興味が、この映画を楽しむ最大のポイント。ラストまでスクリーンから目を離すことが出来ないエキサイティングな作品であります。



**おすぎ**  
(映画評論家)

1945年 神奈川県横浜市生まれ。  
阿佐ヶ谷美術学園デザイン専門学校卒業後、デザイナーを経て「歌舞伎座テレビ室」製作部に勤務。  
1976年ニッポン放送「オールナイトニッポン」で映画評論家としてデビュー以来、テレビやラジオへの出演、新聞、雑誌への執筆、トークショー開催など多岐にわたって活躍している。いまニッポンでいちばん信頼されている「劇場動員員」。

著書に「おすぎです 映画を観ない女はバカになる!」(主婦と生活社)、「バカー!バカー!バカー!」(ペンギん書房)、「愛の十三夜日記」(ダイヤモンド社)、「おすぎのネコっかぶり」(集英社文庫)などがある。

©2019 ESCAPE FP HOLDINGS PTY LTD,  
ESCAPE FROM PRETORIA LIMITED AND MEP CAPITAL, LP